

国際シンポジウム

「初期禅宗史研究の最前線」

開会あいさつ

竹村 牧男*

皆さん、おはようございます。

本日は、国際シンポジウム「初期禅宗史研究の最前線」にお集まりくださり、誠に有り難うございました。心より歓迎申し上げます、また感謝申し上げます。

本シンポジウムは、科研「海外の研究者との連携による中国・日本における禅思想の形成と受容に関する研究」、および井上円了記念助成金「東アジアにおける仏教思想の成立と展開、並びにその意義の解明」の助成を受けて開催されるものです。今回、海外からは、記念講演を行っていただく、アメリカ・コロンビア大学のベルナルド・フォール先生を初め、中国、台湾、カナダおよび国内から多くの研究者に参加していただいております。本日と明日と、2日間にわたって、充実したプログラムが組まれております。内外の各地からご参加くださいました講師の諸先生に、心より御礼申し上げます。

本学は、2014年に文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」、トップグローバルユニバーシティ・プロジェクトに採択されて以来、教育・研究活動の国際化に全力を注いでおりますが、本日、このように国際色豊かに、内外の多彩な研究者が一堂に会して学術交流を果たす機会を実現できましたことは、本学にとっても大変望ましいことと考えます。本シンポジウムを企画・運営される伊吹敦先生初め関係各位に、厚く御礼申し上げます。

*東洋大学元学長

禅については、特に鈴木大拙が英文で禅の思想に関する本を出版したり、コロンビア大学を中心に海外で講演したりしたことによって、国際的に注目を集めるようになり、また日本曹洞宗のフランスを中心とした伝道活動によって、欧米では多くの人々が関心を抱くようになってきていると思います。特に現代に至って、キリスト教の信仰が問われるような時代状況の中で、ドグマのない禅は、精神生活の新たなよりどころとして期待されているものと思います。今日、世界中で、禅への関心と期待とは高まっていることでしょう。

禅仏教を他の仏教と比べたとき、禅の特質は「不立文字・教外別伝」にあると、ひとまず言えることでしょう。本学創立者の井上円了博士は、あらゆる仏教思想を研究して、天台思想、華嚴思想、密教思想などを高く評価していますが、一方で禅宗の立場をも非常に高く評価していました。たとえば、井上円了博士は、その著『禅宗哲学序論』において、次のように言っています。

以上の諸宗（小乗俱舍宗、大乘法相宗、三論、天台、華嚴、真言）はこの靈妙不可思議の理論に基づきて、成仏得道の法を開説したるも、応用上においてははまだ頓速にこれを実施するの門路を發見せざりしをもって、禅宗に至りて単刀直入の別伝を唱えきたりて、一切の妙、一切の靈を応用門に集め、また我人の無限性の大意力によりて活真如の本性を自己の心中に打開し、靈々妙々不可思議を即時直接に感得する一種の新門を建立せり。これひとり仏教中の教外別伝なるのみならず、世界古今千種万類の宗教中の教外別伝というべし。（『選集』第6巻、299頁）

これを要するに、禅宗は古来仏教各宗のいたずらに文字言句の末に走りて、言外に甚深微妙の意あるを知らざるがごとき風あるを見て、不立文字を唱え、また真如仏心の本性は実に靈々妙々不可思議にして、一經一論の中において全味を感了すべからざるゆえんを示して、教外別伝と称するに

至る。ここにおいて仏教の最高至大幽玄微妙の真源始めて開け、真如の靈光ここにおいていよいよ明らかなり。これ実に禪宗の卓見といわざるべからず。(同前、304頁)

このように井上円了博士は、禪宗は他の仏教と異なって、真如仏心を即時直接に感得する方法を開いたことを認め、その意義を高く評価したのであります。その特質は、禪宗の源流から変わらないものであるでしょう。

禪宗の始まりについては、古来、菩提達磨がインドから中国にやってきて、その教えを伝えたということになっていますが、最近の研究によれば、それは後世のある一派の権威付けのための作り話とも見なされているようです。特に初期禪宗の歴史に関しては、まだまだ解明すべき課題がまだまだ残っていることでしょう。今回、2日間にもわたって、この問題に多方面から光を当て、その諸側面を解明することは、この分野の学術研究にとって大きな意義があるものと存じます。それぞれのセッションにおいて、活発な討議がおこなわれますことを期待しております。

最後に、このシンポジウムが、実り多いものとなり、世界の仏教学の進展に寄与するものとなることを心より祈念申し上げまして、はなはだ簡単ではありますが開会のあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。